

事業活動実績報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、
	人との関わる力、逞しさを育ていく。
	◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	SDGsを取り入れた保育（考える・意識する・実践する）
2 実施期間	令和 6年 6月 3日 ～ 令和 7年 3月 11日

3 取組概要	(取組日) 令和 6年6月3日 ～ 令和 7年 3月10日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	『ちきゅうフレンズ』をホールなどでシーズン毎に学年で鑑賞。様々な国の挨拶から始まり、国の特産物や特徴などを 知り、他国に興味を示していた。また、ゲーム感覚で国の特 徴を知ることが出来楽しんでいた。また視聴するだけでな く、体を動かしたり踊ることが出来、より集中出来ていたよう に思う。	
	(取組日) 令和 6年6月3日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	葛飾区の環境学習で、ゴミの仕分け方を教えて頂いたり、 ルールを守り、ごみを捨てる事でリサイクル品に変わる事に 興味を示していた。ゴミ収集車の仕組みを見学したり、実際 にごみを収集体験が出来ごみに対する認識が高まった。	
	(取組日) 令和 6年 6月3日 ～ 令和 7年 3月 11日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	普段の生活では経験のできない、水の中で生息している生 き物に直接触れることが出来喜んでた。触り心地や感触 などを確かめていた。また、間近かで観察する事が出来ない 生き物ばかりだった為、移動水族館を通して更に水の中の 生き物に興味・関心を示す子どもが多くなった。	
	(取組日) 令和6年6月10日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	絵本を通して、水不足の為、子供が水を汲むことが日常的 な国がある事を知り、プールの水を利用して運ぶ経験をし た。水道がなくなるとどう困るのか？どういう事が起こるの か？みんなで考え、大切な水を使用する際、どういう事に気 を付けるべきか自ら話す子どもの姿が見られた。	

3 取組概要	(取組日) 令和6年 6月17日 ~ 令和 7年3月11日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	給食で使用する一日分の野菜や肉、ご飯などの量を知り、どう作っているのかを画像で確認したり、一日の残食の量をペットボトルの水で表現して重さを知った。一日の残食を一人ひとり持ち、どう思うのかを考えた。子どもからも『もったいない』との声が上がリ、どうすればよいのかを考える姿もみられた。少しでも残食が減るよう残食表を作った。子ども達が表をみて各クラスの残食が分かるように、汁物・ごはん・おかずを、イラストで表示した。残食の量もイラストの大きさで示し、完食の印は、にこちゃんマークを起用した。残食表を掲示したことで、完食マークを貼れるように意識したり、完食マークを貼れることを楽しみにするようになった。他のクラスの残食の完食マークに触発され、友達同士で張り切って食事をしている姿も見られるようになった。	
	(取組日) 令和 6年11月15日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園		
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、		
	人との関わる力、逞しさを育てていく。		
	◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。		

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)		
2 事業概要	新規事業としてSDGsに具体的に取り組んでいく。5歳児で幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』～ちがうけど おんなじ～を取り入れた保育活動。年4回実施。プログラムを通じ いろいろな国々のことを知り、多様性を学び、子どもたちの世界観を広げるプログラムを活用し、SDGsを考え、意識し、子どもたちの世界観を広げるプログラムを活用し、SDGsを考え、意識し、具体的な実践につながる活動を取り入れていく。		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・取り組みに必要な人員・・・5歳児担任2名と補助、教諭2、3名。 ・パソコンとプロジェクターを使用し、プログラムを投影。 ・活動場所は、2階ホール・又は、2階保育室や1階子育て支援室。 ・聴診器を準備する。 ・絵本や紙芝居など 視覚教材を使用する。	
	事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 移動水族館を通して直接触れたり、間近で観察する事を経験することができ、図鑑などでその他の生き物を調べたり、園で飼育している亀や金魚・メダカを通して水の中の生き物に興味や関心をしめし、水の汚れなどにも気に掛ける姿が多くなった。
計画時	4 事業のねらい	・世界の文化にふれ、多様性を学ぶ。 ・世界のSDGsの課題を知り、SDGsの問題を意識し、自分の事として身近に考え、出来る事からやろうとする気持ちを育てる。	
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・『ちきゅうフレンズ』を通して海外の生活様式や文化、SDGsの問題を自分たちが住んでいる日本と比べたり、考えることが出来た。また、多様性についても知ることが出来た。 ・SDGsの問題をみんなで話し合い、自分たちはどうすべきか、何が出来るのかを考え、自分の事と捉えるきっかけとなり、視野が広がった。 ・異文化にも触れることができ貴重な経験となった。 ・話し合いの場を多く設けてきたことで、自分の意見を発言したり、相手の意見を聞いたり、共感し合えることで、話し合いの姿勢が身についたと感じる。
5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・保育園・幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』年4回と関連絵本・紙芝居などの教材を利用し、SDGsにつながる実践活動を実施。教材の実践を通して、出来ることを考える内容。 - 第1回オーストラリアと水 6月から9月 《園の活動》バケツに水を汲み、水の重さ、大切さを知る。 移動水族館を通して海や川の水もきれいに保つことの大切さを知る。水を大切に使用する。 - 第2回ケニアと生き物 9月から10月 《園の活動》ふれあい動物での動物たちとの触れ合い。(聴診器で心音を聞く。)第3回シンガポール ゴミ・リサイクル 1月から3月 《園の活動》環境学習(葛飾清掃局ゴミ分別、清掃車見学)。エコバック作り。 - 第4回まとめ 絵本や視覚教材を利用し、振り返りと他の17の目標のうち未実施のものを実施検討する。 ・園の飼育物に対して、生き物の大切さ、世話をする事の大切さ、水槽の中の水をきれいにする事の大切さを知らせている。 ・園のゴミ箱に表示をし、ゴミの分別を日頃から意識できる環境をつくり、自ら意識して分別をしている ・世界には様々な理由で食事をとれない子、病気になってしまう子がいることを知る。 ・給食の残食表を作成し、日々の残食を意識出来るように表示する。 ・稲を植え、育てることで、米が出来るまでの過程を知る。		

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 世界のいろいろな人々と文化にふれ、多様性を意識するようになった。 SDGsという地球上の誰もが考えるべき課題や環境問題にふれ、みんなで考え、できることをやろうとする気持ちが芽生えた。 ・実践保育として、プールの水を運んだり、水の中の生き物や小動物とふれあい、命の大切さや物や水を大切にする気持ちが育まれた。また、森を守るにはどうすれば良いのかなどを知り、SDGsの問題をより身近な問題として実践につなげることができた。家庭へも活動報告をし、家庭でもSDGsの問題提起することが出来た。 ・区的环境学習により、無駄なゴミを出さない、減らす工夫など実際に学ぶことが出来、ゴミの分別の必要性に気づき、規範意識が芽生えた。 ・園のゴミ箱に 表示をし、ゴミの分別を日頃から意識できる環境をつくり、自ら意識して分別をしている ・世界には様々な理由で食事をとれない人達がいることを知り、毎日の食事が出来る事が当たり前ではないことを知ることが出来た。 ・稲を植え、育てることで、米が出来るまでの過程を知り、一粒のお米を大切にする気持ちが芽生えた。 ・給食を作る工程や使用する野菜の量を知り、作って頂いた方への感謝の気持ちが芽生えた。また、一日の残食の量を知り、自ら残食を減らそうと意識したり、残食表も意識している姿も多い。
	6 環境構成	・幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』を実施。クラス又はホール、子育て支援室で視聴。パソコン・プロジェクターを用意。 ・ちきゅうフレンズのワークを選択し、実施。ワークシートを印刷し、園児に配布。ワークシート集を作成し、用意する。 ・海外の文化や生活様式、食べ物、ダンスなどを知る。映像から学び、踊ったりする。 ・SDGsに関する絵本、紙芝居、図鑑、書籍などの準備。 ・残食表の掲示。 ・園のゴミ箱に 表示をし、ゴミの分別を日頃から意識できる環境をつくる。
計画時	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ホール等で学年で映像をみた後、ワークシートに取り組んだ。 異文化に触れたり、SDGsの問題を考えることが出来た。 園独自の活動としては、バケツに水をため、頭に掛けて運ぶ活動や移動水族館、ふれあい動物園、環境学習、米づくり、残食表の掲示など、具体的に活動にイメージを落とし込みSDGsの問題を意識しながら実践することが出来た。
	7 期待される効果児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・世界の色々な人々や文化に触れ、多様性を意識する。 ・地球上誰もが考えるべき課題や環境問題に触れ、みんなで考え自分たちが出来る事をやろうとする気持ちが芽生える。
事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・異文化や、生活様式の違いをしり、生まれ育った場所によって、言葉や肌の色、髪の色、食べ物、民族衣装、踊りなどに興味・関心を持ち、他国と自国を比較したり、意識するようになった。 ・食事を食べることへの感謝、食べ物の大切さを知り、自ら残さずに食する姿が多くなった。 ・環境問題等に対して、紙・水・ものを大切にする意識が芽生え、出来る事から取り組もうとする姿が見られる。
	8 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・『ちきゅうフレンズ』を活用することで、多様性への学びにつながった。海外の問題を身近な問題として捉え、意識し、考えるきっかけを持つことが出来た。 ・世界には食事が食べれない国もあることを知り、食に対する意識が変わり、食べ物を大切にしようとする姿が多くなった。また、米づくりの過程を稲を育てる活動を通して知り、手間暇かけて作られていることに感謝し、一粒の米も大切にしている。 ・地球を大切にすることを育み、人や生き物へ対しての思いやりも育ち、園での飼育物に対しても今まで以上に気に掛け、水の交換やエサやりなどを手伝う姿が多い。 ・区的环境学習を通して、きちんとルールを守り、分別してごみを出すことでリサイクル用品になる事や地球を守る事をし、今まで以上にゴミの分別を意識し、分からない時や悩んだ時には確認する姿も多い。